

高橋白山 （本名） 舊高遠藩儒。天保七年十一月信濃國高遠生れ、明治二十七年二月十日歿（一八六一—一九〇四）。諱利貞、貞と修す、字子利、通稱敬十郎。嘉永四年十六歳に藩學進徳館助教。文久年間江戸で藤林天山の學び、鸞津毅堂、大沼枕山等を知る。維新時藩論に抗して追放せられ、手良村で醫師となり、維新後私塾を開いて子弟を教授。その後一時新潟の赴き教師、明治十九年長野師範學校で教職に就き、三十二年病を獲て辭す。對口シテ強硬論と博士の一人として知られる法學者高橋作衛の父。

著書に「内外一覽」(橋詰樸齋全集輯、明治六年五月咬茶齋藏版、山城屋法兵衛賣弘)、「征清詩史」(明治二十年七月三十日高橋作衛編輯)、「經子史千絶」(明治四十二年五月二十日高橋作衛刊、清水書店發賣)等。

